

グループホーム友愛

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域のお年寄りとの機会を多くとりたい。校区イベント(グラウンドゴルフ)参加予定。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		困難な事は事例をあげて、対策を職員間で検討している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域老人クラブの方々との交際の機会を多くとってきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域の盆踊り大会を復活させたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		従来の町内会は有名無実で、脱会する人々が後を立たない。同じ地域に暮らす者として、魅力ある町内に戻し、ホームとの交流を深めて行きたい。

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣のお年寄りに声を掛けて、気軽に立ち寄って頂いている。		ホーム内での行事や、敬老の日に招待し、参加願う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	思い込みや既定概念を除去し、客観的な意見に真摯に受け止め、参考になるものは積極的に取り入れていく。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの方針や活動状況の報告を行い、それに対しての有識者の意見や体験を伺っている。また他の紙施設の事で良い事例があれば、取り入れて実践している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村外部団体である社会福祉協議会を通じて、介護サービス相談員受け入れを行い、利用者の良き話し相手や相談相手になって頂いている。		市町村が運営する市民福祉センターとの連携強化(地域福祉協力員と児童でホーム訪問をして頂く。福祉センターの年間行事に選択参加する。)
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用者の中に権利擁護や成年後見制度を受けている人がおられ、それぞれの事業所の方と都度連絡をとりあったり、定期的な訪問を受けている。またこちらからの情報提供を行い、互いに利用者の人権擁護に努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以下の事に留意して介助にあたっている。利用者に対して、介助する側での立場でもの事をすすめない。利用者の習性や好みを熟知し、職員間で情報を共有する。利用者に意味不明な言動や行動があっても、急いで止めようとせず、一緒になって行ってみたり話を聞いてみたりする。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項を難解な文章にせず、出来るだけ分かり易く、ポイントを得て、十分な時間を掛けて説明している。</p>		<p>入居契約前にご家族には、重要事項を事前に持って帰って頂き、あらかじめ、疑問点や不安な事を整理してもらっておく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先には苦情相談のポスターを展示すると同時に、来訪者用のご意見箱を設置している。また、月2回の介護サービス相談の受け入れを実施している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に報告(遠方のご家族には郵送) ・日常生活の様子(良い事や困難な事) ・お小遣い収支 ・健康状態(バイタル表・処方薬)</p>		<p>職員の移動があった場合(現在の所なし)は、新任の紹介や新人の挨拶文(性格や抱負)を提出する。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談の窓口を内外に設置している。 ・ホーム内 ・区役所介護保険課 ・国民健康保険団体連合会</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定例のカンファレンスの時間を活用して、問題点や提案を共有している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の緊急を要する時や、状態悪化時にも対応出来るよう、余裕ある勤務表を作成している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日勤帯及び夜勤帯は常勤者・非常勤者を問わず、現在の所異動・離職は無い。今後も、より良い職場環境の良好さを保つよう努める。</p>		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>男女年齢を問わず、資格は有する事にこした事はないが、その人の介護に対する考え方や人間性を重視している。また、社会参加や自己実現の意欲を持てるよう、有識者の研修会や講演会等にも参加している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>地域の公民館や市民センターで開催される情報紙や予定表にはいつも目を配っている。高齢者に対する勉強会があれば都度参加している。(接し方、考え方、高齢者の心理等)</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内職員同士の勉強会を開催したり、他のグループホームの見学会を行ったりしている。</p>		<p>自己実現のため、資格取得に於いても、次のステップに勤める様な環境作り(外部の講習会、勉強会参加)</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームを見学に行ったり、勉強会に参加し、困難事例や同じ悩みの解決策を検討しあっている。</p>		<p>同地区のグループホームとの交流をとって行きたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各職員の誕生日には、運営者及び管理者が個別に祝い、要望や日頃の悩みを聞いて解決に努めている。また全員で食事会を開き、親睦を深めている。</p>		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者自身も、介護職の一員であり、良く職員個々の勤務状態を把握している。定例のカンファレンスの場では成功事例は皆で称賛し、困難事例は皆で解決するよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員の何気ない会話の中から読み取ったり(職員は常に感度を高めて)、月2回の介護サービス相談員からの情報を得るようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	機会ある毎(家族の来訪時)に必ず事務所に立ち寄って頂く時間を設けている。遠方の方には定期的に電話を頂くようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	大抵の入居希望者は独居暮らしが長く、家族は一人で居ると危ないという認識はあるが、詳細な事までの把握がなされていない。		まずは、ホームでの日常の暮らしが、どんなものでいかに安全で安心であるかを実感して頂く為に、ある程度(出来るだけ長い)、ご本人と一緒に居てもらう。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず、ご本人とご家族が、ホームでの暮らしぶりを短時間でもその雰囲気味わってもらおう。その事を繰り返しながら馴染んで頂く。場合によっては体験入居で確認していただくことを勧める。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者一人ひとりの個性・意思を尊重し、趣味や特技が生かせるよう出番や役割を分け合い、周りから必要とされる実感を持って頂く。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設は家族と情報を共有し、一方的な介護にならないよう、家族に対し理解と協力を求めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設はご本人とご家族の仲介役となり、それぞれの思いを汲み取り、互いの潤滑油としての役割を担っている。		ご本人がご家族の元に帰省する機会を設ける(お正月・家族旅行・お墓参り)等一緒に過ごす時間を作るようお願いしていく。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いたい時は、一緒に付き添い、またホームにも遊びに来て頂いている。遠方の友には、お手紙を出す支援を行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとつの事をチームを組んで、ゲームをしたり作業を行う機会を作り、良い関係になるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退室後も、連絡先を確認し、その後の暮らしぶりを互いに知らせあって遊びに来て頂いたり、こちらから訪問したり。手紙のやり取りも職員や入居者と多岐に渡っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表現が出来ない人やすぐ忘れてしまう人達ばかりなので、顔の表情や、行動パターンによって理解するよう努めている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの情報を出来るだけ収集し(どんなささいな事でも)、介護計画に役立てている。また、定期的なカンファレンス等で職員全員で検討しあっている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活様式や行動はその時々で変化していく。都度その状態に応じ、経過を、見ながら臨機応変に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症の程度により意見の聞ける方にはご本人の希望や要望を反映させている。家族とも連絡をとり、スタッフの意見交換しながら計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの見直しを行っているが、変化が生じた場合は、本人、家族、職員間で話し合いを持ち、新たな計画書を作成して、家族の了承を得ている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に日々時間を追って、ケアの実践・職員の気づきや工夫を記録している。またそれらの情報を共有しながら介護を実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族に対するの食事提供やホーム宿泊の進め。また利用者の個人的な用事の付き添い同行を行っている。(買物・友人宅への訪問・墓参り)		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の所轄機関には、ホームの存在は認知されホームPRのための情報発信を行うと同時に、各機関からの援助を受けやすい環境づくりをしている。(消防署との合同訓練・警察署に対して徘徊者のリスト提出・地域の自治会との交流)		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者本人が自分の意志を伝えることは困難なことなので、こちらから希望や要望等察知できるよう、様子・観察を怠らない。また他/IGHホーム見学を行い、困難事例やその対策、取り組みなど情報交換を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営会議の場で利用者の権利擁護やケアマネジメント等の相談に乗って頂いている。		地域包括支援センターとの話し合いや相談の時間を多くとりたい。合理的な方法として表や文章にまとめて事前に提出しておくのも、ひとつの方法として考えている。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重している。掛かり付け医や意向がない場合は、新たに当ホームの掛かり付け医にこれまでの病歴を紹介しておき、今後に備えている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門病院と提携しており、いつでも相談出来る体制を取っている。また、定期的な診断や検査も継続して行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約により、専属の看護師2名が日常的な健康管理を行い、状態悪化時に於ける主治医との連絡・調整を行っている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>当ホームの情報提供書を提出し、利用者のこれまでの病歴や生活習慣を知って頂く。また、定期的な見舞いと病院担当者(主治医や看護師)との面談を行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りの指針を作成し、全職員と掛かり付け医とが今後起こり得る事として受け止めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>まだ事例がないので、他グループホームの困難事例などの情報入手し、出来る範囲の支援や見極め等について全職員で検討を行い、将来に備えている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人が家族復帰にしても、違和感がないよう日頃よりホームでの生活ぶりや対応等について、家族と情報交換を行っている。また、ホームでの生活の足跡が、ご本人にも分かるようにしている。(写真帳・手作の品等)</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人の習性を熟知し、悪い習慣であっても注意するような言葉掛けは避けて、それとなく支援している。また、個人情報等の記録及び取り扱いについては全職員が秘密保持の原則を徹底している。</p>		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分でうまく表現出来ない部分については、こちらから予想出来る物を何件か質問し、相手に選択してもらっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自主性を尊重し、ご自分でなさろうとする事には手を貸さず見守りだけにしている。介助が必要な時は、声掛けしながら手助けしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝食後や入浴後は、皆様の整容の時間を取っており、介助が必要な方には手助けを行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の皮むき、ゴマすりのすり鉢すり・ぜんざいの団子作り・いなり寿司の具の削り等を手伝って頂き、出来上がり時には会話が弾んでいる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	要望がある時は、お店にご本人と同行し、自ら選んで頂いている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な声掛けは、失禁の減少に効果あり。また見守りが必要な方には、本人も納得の上で最後まで見届けている。深夜、頻尿や失禁・失便の多い方にはベッドセンサーにより迅速な対応が出来ている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	皆様の要望や一人ひとりの健康状態にあわせて、対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠が十分でない方には、状態を見ながら帰室を促し、昼寝や休息を取ってもらっている。夕食後には軽い運動や風船バレー等が心地良い疲労となり、安眠に役立っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事計画書作成し、皆さんにも知って頂き、生活に目標やメリハリをつける。 個々の趣味や特技を活かした楽しみを持って頂く。 全員で楽しめるもの(買い物・誕生会・季節にあった行事・ハイキング・ドライブ) 日常生活の中で、個々の力にあった役割分担を持って頂		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は大切であるという認識は、皆さん持っておられるが、所持すれば必ず紛失するので、ホームでお預かりしている。ご自身のお金を使って、欲しい物を買うという意欲は皆無。お金を使って買物の楽しさを味わって頂く為に、ホーム共通の買物に出掛けます。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買物・実家への一時的な帰省・弁当持参のドライブ旅行・市民センターや公民館で外部の方との交流会は日常的なものとなっている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方にあるお墓参りは、ご家族に協力を得ている。お正月等、一時的な帰省が出来るよう、ご家族に呼びかけをしているが、まだ実現出来ていない。		一泊の旅行など計画。実現出来るかどうか困難な事ではあるが、皆さんの希望を集約して、事前に計画を立てることや、家族の協力が不可欠である。

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の力に応じて支援している。本人自らではない場合は、こちらから声掛けし、どこに？誰に？等呼びかけたり、あらかじめ先方相手が分かっている場合は、そのように導いていく。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	千客万来で歓迎している。お客さん達には行事予定をお知らせし、宣伝し、また来訪して頂けるよう本人と一緒にお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以下の事項に配慮している。 。利用者に対し、介助する側での立場でもの事をすすめない。 。利用者の習性や好みを熟知し、職員間で情報を共有する。 。利用者に意味不明な言動や行動があっても、止めようとせず一緒になって行ってみたり、話を聞いてみたりする。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則は鍵を掛けないようにしていたが、特定の利用者による不法侵入(他の利用者の居室)が相次ぎ、物が紛失したり危険なものを口に入れたり(消しゴム・墨汁・浴槽やキッチンの洗剤)、事例がある為、他の利用者の希望があれば、本人も職員も簡単に開錠出来る物を備えている。(出来るだけ見守りで防ぎたい)		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認は常に全員で心掛けている。特にトイレに入った時(長時間に及ぶもの)は外から声掛けしたり、許可を得てドアを開けて様子を見る。(内側から施錠しているので)		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共用部や居室には、その人なりの部屋作りに心掛けている。しかし、個性や特性を考慮するとやむを得ない部分もある。(ゴミ箱..何でも捨てる。花瓶..破壊.また尿注入。洗面所の石鹸.洗剤。タンスには余計な物を収納しない)		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	当ホームで起こったものだけでなく、他施設での事例等とり寄せて、一人ひとりに合わせた事故防止勉強会の開催している。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤帯・夜勤帯に分けてマニュアル作成し、万が一の事故対応に備え、その為の実施訓練を全職員で行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害に備えて、緊急連絡先・避難場所を指定している。また知名度も高まり、近隣との協力体制あり。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個性や持病による状態は日常生活で把握しているので、起こり得るリスクを予想しながら見守っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックは異変の発見に効果あり。異変に気づいた時点で、専属のナースに相談し、場合によっては主治医の診断を受けている。またその日に起こった事件は具体的に日誌に記録し情報を共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の現在の病気や処方薬を一覧性のある表にまとめて管理事務室に掲示している。また薬は1つのケースに利用者毎に配分し、職員同士互いに声の掛け合いで投与管理。服薬後の効果も観察している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のチェック項目の1つに排便の確認がある。正常でない場合は、専属のナースや主治医の指導を受けながら対応している。また日々の運動は欠かさず、食事でも緑黄色野菜を温野菜にして食して頂いている。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは欠かさない。就寝する際、義歯ある人は、ポリデント洗浄し、ケースに収納する。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスと食べ易さをして調理。午前中・午後・入浴後の水分補給		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定例となっているもの 年1回のインフルエンザ予防接種 年1回の健康診断 主治医の定期健診 入浴時の皮膚点検		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房・調理器具・食器の定期消毒。 特に調理器具は、毎日熱湯処理。 食材は、日々買物し、在庫にしない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季折々の草花を植栽。 玄関までの寄り付きは、穏やかなスロープ。 玄関内と屋内フローリングは段差なし。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は車椅子でもゆったりと移動できるよう十分な空間づくりを行っている。また入居者と職員の手づくりのカレンダーや行事の写真等が貼られ、穏やかな空間づくりとなっている。調度や設備など家庭的なものを使用している。		

グループホーム友愛

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、掘こたつ風のテーブルを設置し、お茶を飲みながら、新聞や雑誌を読めるよう環境設定している。またフローリングのテッドスペースには利用者同士の会話が楽しめるようテーブルセットを設置している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品などが持ち込まれて個性豊かな居室空間づくりを行っている(仏壇やTV等)		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暑すぎないよう、寒すぎないようエアコンによる温度調節をこまめに行っている。(利用者の感覚を尊重)また換気については、窓を開放することを嫌う利用者が多いので、不在時、定期的に空気の入替ええを、行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手スリはホーム全体に、くまなく設置している。必要な方は、この手スリを活用してどこでも移動可能である。和室にはフローリングの床より、1段高くなっており、椅子代わりになる。また左右の柱には手スリをつけて安全に昇り降りができる。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者個人に適した物品を各々取り揃えている。(歌本・習字セット・手づくりの五目盤・三味線・マンガ本・カラオケセット・輪投げ・ボールセット)		意欲低下が著しく、基本的なこと(入浴・食事排泄・)等から介護計画を見直す必要あり。機能と意欲のある方は、個人的に満足が高められるようレベルアップを図っている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の外は親しみのある看板を設置している。またその周囲には、四季おりおりの草花を植栽し、ベランダからも庭を一望出来、四季の移ろいを肌で感じとれる。		

グループホーム友愛

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム友愛

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)